

照明の2027年問題 本当に大変なのは民間企業

危機管理コンサルタント 越智 文雄

今年に入ってから、水俣水銀条約による2027年の蛍光管製造禁止が引き起こす問題について、警鐘を鳴らしている。国

際条約で水銀を使用する蛍光管の製造と輸出入が2027年末までに禁止されることだ。

私はこれまで、省エネとコストダウンの意識がない自治体や、公共工事と建築繕の世界で、高いカネと長い時間をかけてゆつくとLED化を進めてきたことへの対策をアドバイスしてきた。

警察庁舎、札幌大や道立高校をはじめ数千の大型施設のLED化を残している。加えて道営住宅だけでも2万戸を超えている。地下街や地下鉄を抱える政令都市の札幌をはじめ、旭川や釧路、室蘭、苫小牧、函館、岩見沢、北広島、恵庭ほか地域の核となる都市でも数百件から千件を超えるLED化をあと3年半で済ませなくてはならない。公共施設や地下道が停電（不点灯）しては社会が成り立たなくなるからだし、しかしながら、本当に大変なのはおカネのない

民間企業や自営業者である。国や自治体はどんなに巨額な費用になっても、結局我々の税金を使って改修工事をすればよいが、民間は自分のおカネか、無ければ借金をしてでも、2027年12月までのあと3年半で照明工事を終えなくてはならない。

これが間に合わないという。北海道の主要産業である農業も酪農も水産も観光も製造業も明かりがなくては成り立たない。あちこちが消えたままの生乳工場や水産加工場、食品工場では異物混入もチェックできない。薄暗いホテルや飲食店にお客さんが入るだろうか。

私立高校や私立大学では授業も講義できず、暗い病院や診療所では患者を診ることができない。商売を続けるには灯りを

護らなくてはならない。今、私が警鐘を鳴らしているのは、発光ダイオードの原料となるガリウムの産出で世界の98%を占める中国が資源戦争を仕掛けており、これから大幅な値上げや品不足が必ず起こるということである。

5月に来札した高市早苗経済安全保障担当大臣にもこのメッセージを伝え、認識してもらったが、まず、本稿をご覧の皆さんは自分の頭の上を見て、もしもまだLEDになっていないければ今すぐ手配していただきたい。なに、コンパクト蛍光灯？それは来年25年12月で製造禁止になりますよ。

試算の方法や工事業者、リース会社の紹介もするので、お気軽に「あかりみらい」までお問い合わせいただきたい。



まだ本庁舎や道庁では、

地下街や地下鉄を抱える政令都市の札幌をはじめ、旭川や釧路、室蘭、苫小牧、函館、岩見沢、北広島、恵庭ほか地域の核となる都市でも数百件から千件を超えるLED化をあと3年半で済ませなくてはならない。公共施設や地下道が停電（不点灯）しては社会が成り立たなくなるからだし、しかしながら、本当に大変なのはおカネのない

あかりみらい 道内42市町村のLED化でコスト削減に貢献

地域のシンボル施設で 利用客の快適性が向上



▲緑のとりがり屋根がアクセントとなっている



▲ブナを中心にまちの歴史や自然を紹介している



▲広々としたスペース



▲吹き抜け構造で2階には図書館がある

あかりみらい（本社：札幌市）は北海道だけでなく42市町村のLED化のコンサルティングを実施してきた。実績は道内ナンバー1だ。ほかにも電気料金高騰対策やカーボンニュートラル対策などをエネルギーコンサルタントの観点から随時行っている。

実施した道内42市町村のLED化は、本庁舎や消防庁舎、公民館、図書館から小中学校、福祉施設に至るまで、あらゆる施設がある。さらに、野球場やスキー場の屋外照明などにも実績を重ね、コンサルティングと施工に関するノウハウは十分に蓄積されている。

あかりみらいのLED

道の駅にしおこっぺ花夢 (西興部村)



▲国内に一つしかないからくりオルガン



▲村のイメージキャラクター「セトウシくん」



▲初夏から秋にかけていろいろな種類の花が咲く

道の駅ひがしかわ道草館 (東川町)



▲自慢のお米や新鮮野菜、日本酒など豊富な特産品が並んでいる



▲こうした場所の照明は、観光客にとってはありがたい



▲2階への階段周りも工夫が施されている



▲写真文化首都「写真の町」らしく、さまざまな写真が展示され、そこには必ず照明がある

道の駅鐘のなるまち特産物展示館・開基百年記念塔 (秩父別町)



▲開基百年記念塔最上部の展望デッキからは秩父別のまちなみを一望でき、四季折々の田畑の光景も楽しめる



化はリース方式を活用しているのが特徴。自治体の全施設を一気にLED化するとなると、大きな予算を計上しなくてはならないが、リースだと長

期分割が可能だ。LED化を実施した公共施設では電気料金やメンテナンス費の削減などでメリットが生まれている。市町村の人口や施設

規模にもよるが、年間数百万円から数千万円、さらには数億円の削減効果が試算されている。数値に表れる効果に加え、「施設のイメージがガ

ラツと変わった」「一気に明るくなった」という声が多く、施設で聞かれる。写真は、あかりみらいが手掛けてきたLED化された施設の数々で、多

道の駅南ふらの物産センター (南富良野町)



▲大きなヒグマのはく製が印象的な物産センターのロビー

くの人たちが訪れる公共の場所だ。LED化によって電気料金が下がり、CO2が減って、施設全体が明るくなり、その快適性を高めたのは間違いない。

農業の関連施設もLEDが急がれる

「地域のシンボルとなる施設」は公共施設だけではない。一次産業を主力とする道内では農業や漁業、林業で団体や民間企業が管理運営する施設がたくさんある。

特に農業では、米作や畑作では集出荷施設や貯蔵施設、加工施設、選果場、工場など、酪農・畜産では牛舎や鶏舎などだ。LED化に未着手な施設では蛍光灯の製造と輸出入が禁止される「照明の2027年問題」に接し、その対応が急がれるところだ。